

八王子花街プロジェクト

Hachioji Hanamachi Project

振興班

上江洲 舞¹⁾, 雲林 尚子¹⁾, 佐藤 瑞紀¹⁾, 佐藤 里穂¹⁾,

指導教員 中山 賢司¹⁾

¹⁾創価大学法学部法律学科中山賢司ゼミ

八王子により多くの人に来てもらうために八王子花街のWEBサイトを作成し、年齢や性別を選ばない新たなニーズをつくります。花街は予約の仕方が複雑であったり、女性や若い人に浸透していないという現状がありますが、これを解決していくことで八王子に新たな魅力を生み出せると考えました。そこで、ネット上で花街の仕組みなどの情報を紹介するPRを含めた予約サイトを作成することと、発信力の高い若い女性に来てもらうためのプランを作ることの2点を提案します。

キーワード：花街、女子会、お土産、予約サイト

1. 問題意識

私たちは地方創生に関心のあるチームで構成されており、身近な地域の活性化を課題に、大学の所在地である八王子での取り組むことにした。

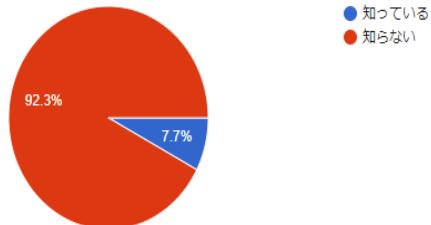
八王子により多くの人を呼び込むためには、新たな名所を発見することで、新しい八王子の魅力を伝える必要があると考えた。そこで、八王子が織物産業で栄えていた時代と同時に賑わっていた花街に焦点をあて、日本文化の継承と発展も兼ね、花街の新しい在り方を提案する。

2. 現状確認

八王子には高尾山のような観光名所があるが、花街があることはそれほど知られていない。下のグラフは創価大学の学生117名にアンケート調査をした結果であり、八王子に花街があることを知っていると答えた人はわずか7.7%であった。

八王子に花街があることを知っていましたか？

117件の回答



また、八王子花街にある置屋「ゆき乃恵」のめぐみさ

んにインタビューを行った際、若い人や女性など幅広いお客様に来てほしいとの願望があった。花街と聞くと、男性がお忍びで通う夜の街というイメージがあるが、現在では八王子祭りなどでの芸者の活躍により、女性の方にもなじみのある存在となってきた。

実際に学生であり女性である私たちで花街の料亭と芸者の予約をしようと試みたが、予約方法は電話のみであり、予約完了までに3度電話をかけなければいけなかつた。この現状では、花街に興味を持って予約しようとしても、実際にお店に訪れるまでの道のりが長く、予約の途中でやめてしまう可能性がある。

以上のことから、八王子花街を八王子の新しい魅力として活用するためには、話題性のある新しいものに敏感であり、かつ拡散力が高い若い女性に花街を利用してもらうことと、予約が簡単にできるウェブサイト作成に取り組む。

3. 事業提案

まずウェブサイトについての提案であるが、これには料亭と芸者のどちらも同じ画面上で予約できるようにする。そのほかにもお店の雰囲気が分かるような写真や、「よくある質問」のような花街についての疑問に答えられるページなども取り入れる。また花街の利用料金はお客様の人数で割るため、料金の見積もりができる機能も加えたい。

次に、若い女性に八王子花街を認知してもらうため

に女子会や記念日などのプラン作りをする。先ほど述べたウェブサイトにプランの掲載をし、そこからプランの予約をした人に対して「お土産制度」を設ける。

マーケティング戦略から、人が誰かに思い出を話す時、そのきっかけの1つは思い出に関連したものを見た時であると言われている。この方法を活かし拡散力を高めるために、この「お土産制度」を提案する。お土産には八王子の名産物である織物を活かした物で、女性に需要があり、目につきやすい物であることを条件にコースターやハンカチ、巾着などのミニポーチなどを検討している。

そのようなお土産品を売っている場所が花街のある中町商店街にあれば、中町商店街と花街で連携を取り、商店街の商品をお土産として提供したい。そうすれば中町商店街の商品宣伝にもなり、花街だけでなくその周辺を盛り上げていけると考える。